

わたなべ よしひろ
渡邊 義紘

始まりは、1枚のクヌギの葉から。ハサミで葉の周りのギザギザの部分を作り落とすと、落ち葉から織り上げたとは思えないほど、躍動感あふれる動物たちを生み出していく。2018年、パリ市立アル・サン・ピエール美術館（フランス）で開催された、パリ東京文化タリウム2018「アル・ブリュット ジャポネII」展に出展。



《マンモス》2022-2023
撮影：高石巧

表現や個性、ほとぼしる^き生の芸術

アール・ブリュット



《無題》2009

さわだ しんいち
澤田 真一

作業所での仕事のかたわら、滋賀県の山中にある陶芸工房で制作を行う。小さなトゲで覆われた造形は生命力に溢れ、縄文土器を彷彿させる。作品は国際的にも評価が高く、2013年には「第55回ヴェネチア・ビエンナーレ」（イタリア）に招待出品された。

地元商店街と社会福祉法人愛成会のコラボにより、中野のまちでアール・ブリュット*の魅力を伝えるアートイベントが全国に先駆けて、2010年から10年以上にわたって開催されてきました。それが「NAKANO街中まるごと美術館!」です。「まち」「芸術」「福祉」が三位一体となり、人々の日常にアール・ブリュット作品が溶け込む空間と、多様な表現や価値観に触れる機会を創出しています。

ここ「ナカノのナカニワ」では、国内外で活躍している創り手による作品を展示しています。独自の発想と表現方法によって生み出された個性あふれる作品から、人が持つ揺るぎのない表現の力を感じます。

中野区役所1階では、2024年8月にアール・ブリュットに関わる上映会を、2025年2月には企画展示やワークショップを開催する予定です。一年を通して、アール・ブリュットの世界と多様な方たちとの交流に触れることで、一人ひとりが自分らしく、ありのままに輝ける、これからの共生社会を一緒に考えていききっかけとなれば幸いです。

*フランスの画家、ジャン・デュ・ビュッフェ(1901-1985)が提唱した概念であり、専門的な美術教育を受けていない人などが、内なる衝動から独自の表現方法によって生み出す芸術作品を指します。アールは「芸術」、ブリュットは「生のままの」という意味を持ち、「生(き)の芸術」とも呼ばれています。



《無題》2011
撮影：高石巧

かつべ しょうた
勝部 翔太

お菓子の袋の口などを束ねるビニールタイで作られた3cmほどの戦士たち。今にも動き出しそうな精巧さを備えている。2013年にウェルカムコレクション（イギリス）で開催された「SOUZOU-Outsider Art From Japan」に出展。その後、同館に50点が収蔵され常設展示されている。

中野区役所での関連情報

カラフルな動物たちが織りなすウォールアート

中野区役所・1階ミーティングルームA（区民利用会議室）には佐藤朱美さんの絵画による巨大なウォールアートが設置されています。個性あふれる動物たちの世界をお楽しみください。



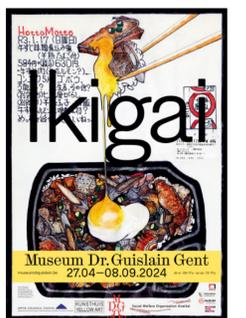
展覧会情報

日本とベルギーの国際交流によるアール・ブリュット展

「Ikigai」（生きがい）

日本とベルギーのアール・ブリュットの独自性を伝える展覧会「Ikigai」が、ベルギーにあるギスラン博士博物館で開催。2025年2月には、庁舎内で本展出展作品を展示予定。

会期：2024.4.27-9.8
会場：ギスラン博士博物館（ベルギー/ Gent）
主催：クストハウス・イエロー・アート、ギスラン博士博物館、社会福祉法人愛成会



お問い合わせ

社会福祉法人愛成会 法人企画事業部

☎ 03-5942-7259
FAX. 03-5942-7252
✉ kikaku@aisei.or.jp



くわしくはこちら
📧 @artbrut.jp
📷 @artbrut_nakano